

C-25 原形曲線の特性に関する研究
○講談社 高木美恵子, 東工大 山口正隆,

目的 現在実用化されている各方式原形曲線の性格と定量化できる方法として代数方程式で表現した場合

i) 代数方程式はできるだけ簡単な実用的計算法で原形曲線を表現する方法とどうしたらよいか。

ii) 原形曲線をもし規準化して一元化できれば体系寸法のいかに拘らず一つの規準方程式で示せるはずである。

方法 各種方式原形曲線を求めこれらを検討しその中の一方式について、その中でも創をもつとも複雑と考えられる袖ぐり線にしばつて階差法を用いて級数系 n 次方程式の次数を求め、曲線から定数を算出し、これらの定数の性格を検討する。ただし原形の寸法と規準化したて軸は背丈で、よこ軸はバストで割った毎次元寸法とした。もしもこれら原形がバストと背丈に比例するものであれば規準化方程式の定数は一定となるはずである。

結果 規準化原形曲線の定数はそれぞれ独立であるが曲線の性格上一つの性格を示しなが最初に予期した一定の値とはならなかつた。